まんのう町教育委員会だより

爽風（そうふう）

子どもの健やかな成長を願って

平成30【2018】
2月1日 発行
Vol.5

Contents

P.2-5　特集　授業が変わる
P.6-7　園・学校ウォッチング　琴南小学校・四条こども園
P.8　シリーズ　子育てを考える
P.9　こども美術館
P.10　ホッとニュース
P.11　関係機関からのお知らせ

引っぱる角度が難しい！

琴南小学校のそばづくり体験（6ページに関連記事）

今　まんのう町の学校が
めざしている授業とは??

授業が変わる

キーワードは
主体的・対話的で　深い学び

たくさんの知識を覚えても、それが必要な場面で実際に使えなければ、身についているとは言えません。また、急速に変化する現代においては、知識そのものが日々更新されています。

これからの時代を生きる子どもたちに求められるのは、自分が様々な局面に遭遇したとき、それを打開するために「頭の中の道具箱」から必要な知識や技能を引っ張り出したり、それがない場合には新たにつくり出したりして、自分なりに解決していくことのできる力です。

そこで、学校の授業においては、単に知識を理解したり覚えたりするだけでなく、納得するまで考え、「頭の中の道具箱」に、すでに入っているものとつながりを持たせながら取り込んでいく過程が重要です。

それが、**深い学び** なのです。

先生が懇切丁寧に教えることで、子どもたちは「分かったつもり」「できたつもり」になります。けれども、それは、本当に納得して分かったのではありません。

たとえつまずきながらでも、自分（たち）で考え、解決していくことで、本当の力がついていきます。また、「できた！」「分かった！」という喜びも大きくなります。

その喜びや自信が意欲となり、次の学習へとつながっていくのです。

すべての子どもが
目を輝かせて
生き生きと取り組む授業へ

主体的 に学んでいるかどうかは、
- 先生や友だちの話を熱心に聴いている
- 夢中になって考えている
- 考えをどんどんノートに書きとめている

といった「学びに没頭する姿」となって現れます。

次頁へ

変わるのは、
教室の中だけでは
ありません。

「まちがい」や「分からなさ」を
大事にしながら
考えを深めていく授業へ

昨年12月4日、大学入試センターは、2020年度から始まる「大学入学共通テスト」の第1回試行調査の問題と結果の一部を公表しました。

出題では、何をどれだけ覚えているかではなく、思考力・判断力・表現力を重視し、実生活に即した場面で学んだことを活用できるかが試されています。

この入試改革は、これまで知識の伝達に偏りがちだった高校や大学の授業を改善するよう求めるものにもなっています。

先生や友だちと考えを伝え合ったり、はっきりしないところを尋ね合ったりすること――つまり、**対話的** に学ぶことで、子どもたち一人一人の考えは見直され、高まっていきます。また、一人では到底たどり着くことのできない深い考えに至ったり、新たな考えがつくり出されたりもします。

さらに、地域の人など学校外の人たちとの対話、文献を通しての先人との対話など、様々な対話によって学びは広がっていきます。

中学生の職場体験学習

地域とともにある学校

～地域の力を教育に～

子どもたちは、多様な人々とかかわり、さまざまな経験を重ねていく中で、これからの予測困難な時代を生き抜く力を身につけていきます。

また、学校と地域との連携は、子どもの育ちを豊かにするだけでなく、大人たちの学びの拠点をつくり出し、地域の絆を強め、地域づくりの担い手をも育てていくのです。

育ってきたそばに土寄せ

さぬきの森でシイタケ栽培

稲の開花観察

国語「町の幸福論」で 役場の職員に質問

認知症キッズサポーター養成講座

教えてくれるのは、地域の人たち

仲善クリーンセンター

スーパーマーケット

浄水場

警察署

施設の見学

温かいつながりの中で

親子料理教室

野菜の苗を買いに

餅花づくり

園・学校ウオッチング

子どもたちが地域に出かけたり、学校にゲストティーチャーを招いたりして行う交流活動や体験活動。本校が積極的に取り入れているそれらの活動の中から、「そばづくり体験」について、くわしく紹介します。

豊かな「つながり」を大切に 地域で学ぶ　琴南小学校

本校の教育目標は、「ふるさとを愛し 学び合い 認め合い 鍛え合う 子どもの育成」です。

琴南地区は、豊かな自然や歴史、文化、そして学校を応援してくれる地域の人たちに恵まれています。しかし、学校の中でだけ学習していたのでは、それらを子どもたちの成長に生かすことはできません。地域との豊かな「つながり」の中で子どもたちが学び、成長できるように、積極的に交流活動や体験活動を取り入れています。

指導してくださるのは、川奥そば打ち道場の高尾さんご夫妻をはじめとする地域の人たち。保護者の方々も協力してくださり、3年生から6年生を中心に、全校生でそばづくりに取り組みました。

種まき（8月）

そばを育てるのは、学校農園です。「一人引き」という農具を使って、種をまくための溝を掘りました。農具を引っぱるときの角度が難しく、子どもたちはとても苦労しました。

そばづくりのスケジュール	8	9	10	11	12
	種まき	開花		刈り取り	脱穀	製粉	そば打ち試食

開花（9月）

台風のために一度は倒れたそばが、途中から上を向き始め、天に向かって伸び、白いかわいい花を咲かせました。子どもたちは、そばのたくましさに驚きながら、その様子を観察したりスケッチしたりしました。

刈り取り（10月）

最初は、おそるおそる鎌を使っていた子どもたちも、慣れてくると、上手に刈ることができるようになりました。苦労をしたのは、刈り取ったそばを束にする作業でした。うまくいかず悪戦苦闘しました。

脱穀（11月）

指導者の方たちが用意してくださった「足踏み脱穀機」や「唐箕（とうみ）」などの道具を使い、熱心に作業をしました。

そば打ち・試食（12月）

子どもたちが心待ちにしていたそば打ち体験。自分たちが挽いた粉を練る→生地を薄く延ばす→切るといった難しい作業でしたが、子どもたちは一生懸命に取り組みました。

できあがったそばは、日頃お世話になっている地域の方たちをお招きして、一緒においしくいただきました。自分たちが育てたそばの味は格別だったようで、何杯もおかわりをする子もいました。

これからも、地域の皆様のご支援やご協力をいただきながら積極的に交流活動や体験活動に取り組み、子どもたちを豊かな「つながり」の中で育てていきたいと思っています。

いっしょにあそぼうよ ～つながる遊び　つながる思い～

四条こども園

築山には遊びがいっぱい

四条こども園には自慢の築山があります。

心地よい風に、自分で作ったこいのぼりを泳がせる春。クスノキやサクラの木陰で遊び、セミとりに夢中になる夏。バッタやカマキリ、カエルを捕まえたり、草や葉っぱをすりつぶして染めものをしたり・・・。築山は、子どもたちにとって遊びがいっぱいの、とても魅力的な環境です。

そんな遊びを助けているのは、倉庫の中の道具たち。倉庫はまさに「宝箱」です。

「ござ」を見つけると、さっそく築山に持って行き、寝転がって空を見たり、滑り台にして滑ったり。秋には「たらい」を持ち出して集めた落ち葉を入れ、大きなお風呂ができました。毎日、道具の出し入れをしながら、倉庫の中に何があるかをちゃんと見ているのです。

先生方は、子どもたちが自然や道具とうまく出合えるよう、いつも考えています。

遊びがつながっていく

子どもたちは、段ボール電車が通れるようにトンネルの中を掃除して、チョークで線路を描きました。それから、踏切を作る人、交通整理をする人、駅を作って待っている人・・・と遊びはどんどん広がり、つながっていきました。

年長児が始めた遊びを、年中児や年少児がまねて遊びます。また、年少児から始まった遊びに年長児たちの工夫が加わり、みんなが楽しめる共通の遊びに発展していくこともあります。

思いを受け止めて

虫取りが大好きな年少児の男の子。ずいぶん寒くなっても、網と観察ケースを持って園庭を歩いていました。

珍しくちょうちょを見つけ追っかけていると、「つかまえてあげる。」と年長児や年中児のお兄さんたちが応援してくれます。

残念ながら逃がしてしまったお兄さんたちに、「てんとうむしは？」「だんごむしは？」「バッタは？」と尋ねる男の子。「もう、寒くなったきん、おらんな。」「赤組さんになったら、また見つけられるわ。」と、季節の移り変わりを教えてもらいました。

頼りになるお兄さんからの言葉は心に響いたようで、その後、虫取り網を持って歩く男の子の姿は見られなくなりました。

全園児を全職員で

子どもたち一人一人が安心して過ごせる園、どの先生のそばにいてもその子らしく生活できる園になるよう、職員間のつながりを大切にしています。

その日にあった子どもたちとの様々な出来事を笑いながら話し合い、「今日もお疲れさま！」「また明日もよろしく！」と声をかけ合い園を後にする、そんな時間は、子どもたちとの「さよならタイム」と同じくらい価値があると感じています。

子どもたちが「明日も行きたいな！」と思える、楽しく魅力的なこども園を、これからもめざします。

シリーズ

子育てを考える

物と心のバランス

二十一世紀になって、早、二十年近くが過ぎようとしています。二十世紀末には、この世紀を総括する議論が盛んに行われました。この世紀は、科学技術のめざましい進歩に支えられて、人々の生活を「物」という視点から豊かにしたのは事実であります。

「二十世紀は人間を幸福にしたか」の著者、河合隼雄先生は、「計量し計測することができるものについては急速に豊かになったのだが、それに気を取られて、計測できないものの価値のほうを忘れ勝ちになったことが大きい問題だったと思う。目に見えないもの、測れないものの価値をよく考えながら『進歩』を考えていかないと、人間の幸福はなかなか得られないと思う。」と、二十世紀を総括しています。

技術革新によって、急速に身の回りに物があふれました。人間の幸福も「物の豊かさ」から創り出される、と考えられがちになりました。

その「物」の生産は、自然を大量に食い潰しながら、人間のためにのみ利用してきました。人間を物的な面で幸福にしたことも事実でありました。

しかし、この限りある、しかも命ある自然環境、そこから生産された物を大量に消費し使い捨てていく、そんな風潮が世の中に満ちて、子どもの心に影を落としていきました。

「もったいない」とか、物にも命があるから「大切に使う」とかいったこだわりや謙虚さがなくなっていきました。二十一世紀は「物」と「心」のバランスが求められる時代だと考えられました。

子育てにおいても、一人一人の子どもの「思い」や「気持ち」といった心の問題よりも、多くのことを有無を言わさず教え込んでいく、与えていくといった考え方が主流を占めてきました。

本来、子どもは自分の力で自分自身を高めていくことができるはずです。しっかりと子どもの心に寄り添ってあげるだけでいいのだ、と思いますが・・・。

（教育長　三原　一夫）

くらべっこしよう（長炭こども園）

もう少しだ、そーれ！（四条こども園）

かぞえてみよう（高篠こども園）

ほうら、大きいよ（満濃南こども園）

あっちでも
こっちでも
い・も・ほ・り！
町内こども園にて

ぬけーん！（仲南こども園）

焼けたかな？（琴南こども園）

こども美術館

平成29年度香川県小・中学校総合文化祭展覧会に展示された、町内児童・生徒の作品です。
（H29.12.21～12.24
高松市美術館にて）

『にじいろの　うみの中』
高篠小１年　田邊　楓華

『あばれるオロチ』
満濃南小２年　黒木　尊翔

『滝をのぼり　龍となる』
長炭小６年　浪越　将輝

『海の捕食者たち』
長炭小３年
薄木 悠人・寺嶋 康生・村上 颯思

四条小４年　近兼　咲湖

『部活動の思い』
満濃中３年　善生　紗羽

『塩入駅』
満濃中２年　西原　朋希

金管五重奏（12/19　満濃南小学校にて）

息をふいただけでは音は出ないけど、くちびるをふるわせるときれいな音が出ることを、はじめて知りました。いろいろな音楽をふいていると、息できれいな音を出していたので「わあ、楽きでこんなことができるんだあ。」と感心しました。
（満濃南小3年　藤澤 孝太）

チェロにすごく感動しました。バイオリンやビオラより二まわりほど大きく、低くて大きな音が鳴るチェロが大好きです。今日の弦楽四重奏でチェロの音色がよく聞こえました。「ボンボン。」この音がぼくは好きです。ぼくもいつかチェロを持って、前で演奏してみたいです。
（高篠小5年　滝口 龍之介）

「子ども未来夢基金」活用事業

森のコンサート音楽教室

12/19～1/24
町内すべての小・中学校で実施

弦楽四重奏（12/19　高篠小学校にて）

頑張っています！　満濃中学校の部活動

郡市新人大会（団体の部：優勝・準優勝）

部活名		結果
剣　道	男子	優勝
	女子	優勝
軟式野球		優勝
ソフトボール		準優勝
バレーボール	男子	優勝
	女子	優勝
卓　球	女子	準優勝
柔　道	男子	準優勝
ソフトテニス	女子	優勝

剣道部（県新人大会にて）

郡市新人大会（個人の部：優勝）

部活名	結果		
卓　球	女子シングルス	優勝	金森　光咲
	女子ダブルス	優勝	佐野　綾 赤松恵美奈
柔　道	60kg 級	優勝	薬師神　優
バドミントン	女子ダブルス	優勝	折目奈々美 大野　睦未
ソフトテニス	女子個人	優勝	増田　菜々 髙橋ひかる

県新人大会（３位まで）

部活名	結果		
剣　道	男子団体の部	優勝	
	女子団体の部	準優勝	
ソフトテニス	女子団体の部	優勝	
	女子個人の部	優勝	増田　菜々 髙橋ひかる
新体操	種目別フープ	２位	竹内　希
	種目別ボール	３位	
	個人総合	２位	
ソフトボール		３位	

※バレーボール男子・女子は、1月27日～28日に県新人大会があります。

関係機関からのお知らせ

まんのう町国際交流協会から

幼児の英語教育

3～5歳の年齢は、語彙力がもっとも発達する時期であり、また聞いたとおりのものまねも得意。なぜなら、大人に聞こえない音が聞こえる聴力が備わっているからです。日本語にはない発音の微妙な違いを聞き取る能力に関しては、大人は太刀打ちできません。

早期に英語を詰め込むことには賛否両論ありますが、ネイティブスピーカー（英語を母国語として話す人）の発音と会話のリズムに接することは、英語脳へのいい刺激になります。これは、親や周りの大人が日本語のシャワーを浴びせることにより、子どもたちが日本語を話せるようになっていくことと全く同じです。ものまねをすることにより、子どもは信じられないスピードでそれを吸収していくのです。

琴南こども園では、一人一人が2ドル持って買い物へ行き、みんなが買った果物で、フルーツパフェを作りました。ベテランのネイティブスピーカーがお店屋さんになり会話することで、自然に日常の身近な英語を身に付けることができたのではないでしょうか。

グローバル化が急速に進む今、子どもの未知の可能性を切り開くカギである英語をいかに楽しく教えていくか、日々試行を重ねながら取り組んでいます。

（国際交流協会　髙木 貴美子）

まんのう町スクールソーシャルワーカー（SSWer）から

あなたは かけがえのない存在

様々な育児に関する情報がネット等で散乱しているおかげで、「こうすべきなのではないか」という「べき論」に縛られ、子育てで悩むことはありませんか。

子どものために「あれもこれも」と思いつつ、それができないとダメ？そんなことはありません。すべてを完璧にこなしていくことは、誰にもできないものです。

そこで、まずは子どもを大切にできる気持ちを親自身が持つこと！持てるように気持ちを保つこと！そして、「あなたは「大切なたからもの」「かけがえのない存在」だよ」というメッセージを子どもに伝えること！これこそ、親にしかできないことです。

他のことは誰かにサポートしてもらって、そのメッセージを子どもに伝える機会を、少しでも持ってみませんか？一緒に食事をしたり、本を読んだり、テレビを見たり、おやつを食べたり…と、5分でも10分でも何気なくできることを、一緒にそばでしてみましょう。どんな贈り物よりもきっと素敵なものだと思います。

「いちばん しあわせな おくりもの」（宮野聡子作）は、そんなメッセージの含まれている絵本です。「きみとここにいるだけで ぼくは とてもしあわせなんだ」と、なかよしのこりすに伝えるくまくん。

お子さんと一緒に、ぜひ読んでみてください。

（スクールソーシャルワーカー　藤澤 茜）

まんのう町教育支援機構から

LD教授（パパ）からの贈り物

昨年10月1日、まんのう町特別支援教育講演会が、まんのう町民文化ホールで開かれました。講師は、上野一彦先生（東京学芸大学名誉教授）。演題は、「これからの特別支援教育の展開―発達障害のある子どもの理解と課題―」です。約250人の教育関係者、保護者、行政の関係職員が講演を聴きました。

上野先生は、これまで日本の特別支援教育を導いてこられた方です。特にLD（学習障害）の研究においては、日本LD学会の創設、その指導法や心理検査の開発、紹介等に尽力され、その著書『LD教授（パパ）の贈り物』では、自らのLD・ADHD的傾向をエッセイに綴ったりもされています。

講演では、特別支援教育について分かりやすく説明してくださり、

○障害と健常は連続する
○障害は特徴ある個性と考えるべきである
○支援もまた連続しなければならない
○支援は、必要とする人が利用しやすく、かつ効果のあるものでなければならない

として、保・幼→小→中→高→大と支援を引き継いでいくことの重要性を強調されました。

「障害とは、理解と支援を必要とする個性である」と結ばれたこの講演会は、参加者にとって、特別支援教育についての理解を深める、LD教授からの贈り物となりました。

（早期支援教育センター『たむ』　宮崎 伸乃亮）

四条こども園にて
（7ページに関連記事）

編集後記

「いつやるか、今でしょ！」で一躍有名になり、今やテレビでも引っ張りだこの予備校講師、林修先生。

子どもの頃から、とにかく本を読むのが好きで、しかも、読んだことを自分なりにまとめないと気がすまなかったそうです。

歴史が好きだった林少年。たとえば『源氏』についていろいろな本を読むと、コピーもない時代ですから、それを手書きで写してまとめ、自分なりの源氏の本をつくるのです。小2でつくり始めたその本は何回も書き直し、小6の時に『源氏総覧』として完成させました。

自分が納得のいくまで整理し直す林少年は、そうやって何度も何度もまとめ直していくうちに、どういうふうに情報を整理したらいいのかが分かってきました。「方法論が身についた」と林先生は言っています。

今回の特集で紹介したように、これからの時代を生きる子どもたちには、知識の量ではなく、自分に必要な知識を自分で獲得し、それを整理し活用していく力が求められています。林先生は昭和の時代の小学生ですが、すでにそのような力が身につく学習のしかたをしていました。その結果、博識でありながら、それを整理し、分かりやすく伝えることのできるカリスマ予備校講師が誕生したのですね。

次号（4月1日発行）予告

特集

整備が進む 学校図書館

※学校司書の配置で充実する町内各学校図書館を紹介します。

園・学校ウォッチング

- 仲南小学校
- 仲南こども園

シリーズ

読書のすゝめ

平成30年【2018】2月1日発行
Vol.5

まんのう町教育委員会だより
爽風

発行責任者：まんのう町教育委員会
〒766-8503　香川県仲多度郡まんのう町吉野下430番地
TEL（0877）73－0108　FAX（0877）73－0113